いわき市長 様

 住所

 届出者
 氏名
 愈

 電話番号

注意 □のある欄は、該当する箇所に**レ**印を付けてください。

施設	名			称						
	所 在			地	電話番号					
従	氏			名						
	職			種						
事者	経			歴						
	免	許	番	号		第	号			
診	製	作	者	名						
療用	型			式						
エッ	台			数						
クス	エックス 線高電圧 発生装置		連	続		k V p	m A			
			短眼	寺間		k V p	m A	s e c		
線装置に	の; 出	定 格 力	蓄加	汝式		k V	μΕ			
関す	エッ	クス約	泉管型	型式						
関する事項	用途			途	□СТ	(□直接□間接 □乳房撮影 □デンタル□ノ	要)□透視 □位置決定 ペノラマ)□そ			
			ボノ	レトリ	電圧50キロ 以下の治療用 ス線装置	チメートルの	可能表面から5 D距離において .0ミリグレイ/	、空 │□以下 □叔ネス		
			ボノ	レトを	電圧50キロ を超える治療		ぎ焦点から1メ おいて、空気カ √イ/時			
	エッ	クス	用:	エッ	クス線装置	装置の接触す	可能表面から5	セン		

	線管の容 器及び照		チメートルの距離において、空 気カーマ率300ミリグレイ/時	□以下 □超える
	射筒の利 用線以外 のエック ス 線 量	定格管電圧125 キロボルト以下の 口内法撮影用 エックス線装置	エックス線管焦点から1メート ルの距離において、空気カーマ 率0.25ミリグレイ/時	□以下 □超える
		上記以外のエックス線装置	エックス線管焦点から1メート ルの距離において、空気カーマ 率1.0ミリグレイ/時	□以下 □超える
		コンデンサ式 エックス線高電圧 装置(充電状態/ 照射時以外)	装置の接触可能表面から5センチメートルの距離において、空気カーマ率20マイクログレイ/時	□以下 □超える
エックス線障害		定格管電圧70 キロボルト以下の 口内法撮影用 エックス線装置	アルミニウム当量1.5ミリメー トル	□以上□未満
	附 加 ろ 過 板 (総ろ過)	定格管電圧50キロボルト以下の	アルミニウム当量0.5ミリメー トル	□以上 □未満
		乳房撮影用エックス線装置	アルミニウム当量0.03ミリメー トル	□以上 □未満
		輸血用血液照射 エックス線装置及び 上 記 以 外 の エックス線装置	アルミニウム当量2.5ミリメー トル	□以上□未満
		透視中の患者への 入射線量率	患者の入射面の利用線すいの中心における空気カーマ率50ミリグレイ/分(高線量率透視制御を備えた装置では、125ミリグレイ/分)	□以下 □超える
		透視時間積算機能から機能付きのタイマー	□有 □無	
		になるような装置又は	情間距離が30センチメートル以上 は当該距離未満での照射防止イン O場合は、当該距離が20センチメ	□有□無
	透視用工		管焦点受像機間距離において、受 はエックス線照射野の絞り装置	□有 □無
日の防止	ックス線 装 置		日形でエックス線照射野が距計の いて、エックス線照射野が受像面 5大きさ	□超える □超えない
上に関		超えるエ ックス線	交点間距離の和がそれぞれ焦点 受像器間距離の3パーセント	□超える □超えない
する		照射野の 交 点 間 場 合 距 離	交点間距離の総和が焦点受像器 間距離の4パーセント	□超える □超えない

構		利用線すり	7中の栄水	受像器接触可能表面から10セン	
造及び		板等の受信 したエック	象器を通過	チメートルの距離において、空 気カーマ率150マイクログレイ /時	□以下 □超える
予防措置		ンチメート る部分を シクス線	面を3.0セ トルを超え 通過したエ	当該部分の接触可能表面から10 センチメートルの距離におい て、空気カーマ率150マイクロ グレイ/時	□以下 □超える
の概		利用線するめの適切な	□有 □無		
要		像面を超え (CTエッ	ェックス線管 えないよう ックス線装置 最影用エック	□有□無	
		受像面を 超えるエ	受像面がF 場合におい に外接する	9形でエックス線照射野が距計の って、エックス線照射野が受像面 る大きさ	□超える □超えない
		ックス線 照射野の 場 合	交 点 間 距 離	交点間距離の和がそれぞれ焦点 受像器間距離の3パーセント 交点間距離の総和が焦点受像器	□超える□超えない□超える
			上上 内庄	間距離の4パーセント	□超えない
	撮ッ装部間エ線除用ス(検撮ク置。)エ線胸用影スを	ス線装置の	杉用エック D照射筒の る 照 射 野	直径6センチメートル	□以下 □超える
		乳房撮影 用エック	患壁患器超が の近指縁る 胸い示を広り	5ミリメートル	□以下 □超える
		ス線装置の照射野	受縁るのの像距のえ野り受間離	2パーセント	□以下 □超える
		定格管電圧ルト以下の 影用エック	り口内法撮	エックス線管焦点皮膚間距離15 センチメートル	□以上 □未満
		定格管電ボルトを ロ内法 エックン	を超える 撮 影 用	エックス線管焦点皮膚間距離20 センチメートル	□以上□未満
			^ペ ノラマ 影 装 置	エックス線管焦点皮膚間距離15 センチメートル	□以上 □未満
ı			び携帯型	エックス線管焦点皮膚間距離20	□以上

		工	ックス	ス線装置	センチメ	ートル			□未	満
		C	Γエック	カス線装置	エックス線管焦点皮膚間距離15 センチメートル					上 満
		線場	表置(护	用エックス 広大撮影を こ限る。)	エックス線管焦点皮膚間距離20 センチメートル					上満
		線装行	表置(排う場合	Dエックス 広大撮影を 及エック ス ・除く。)	エックス線管焦点皮膚間距離45 センチメートル					上満
		並	びに何	び携帯型 走用する ス線装置	エックス線管焦点及び患者から 2メートル以上離れた位置にお いて操作できる構造					
	胸部集検用間接援の表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を表表を	受恤	象器間罩	ヽが角錐型、 巨離においっ 寸野の絞り∜	かつ利用するエックス線管焦点 て、受像面を超えないようなエッ					
		超之	象面をこれ	交点間	交点間距離の和がそれぞれ焦点 受像器間距離の3パーセント					える えない
		ックス線 照射野の 場 合		距 離	交点間距離の総和が焦点受像器 間距離の4パーセント					える えない
		の 防記	像1隻い	の距離には	触可能表面から10センチメートル おいて、空気カーマが1ばく射に イクログレイ					下 える
		周箱岩	照射体 囲 の 犬 い 物	しゃへい\$ おいて、3 マイクログ					□以□超	
		建	築 物	の構造	□耐火構	造 🗆 7	下燃構造	口その)他()
			区	分	構	造	材	料	厚さ	(cm)
			天	井						
			H	東						
		診	周囲	西 南						
		療	の mi	 北						
	構造設備	室の	画	监視用窓						
	の概要	防	F	出入口の扉						
		護物		床						
		1//		也の開口部	□有(用	途)	□無
			効線』	室外側の実 量が1ミリ ベルト/週 となる装置		口有	Ī	□無		

	_	_								
			操	作	室	□有	□無	(理由)
			診療	室の村	票識			□有	□無	
エックス線診療障害		エ防事	止に必	く線障公要なの 掲	害の主意			□有	□無	
		管理区域	管理る	区域を 場	設け 所			□有	□無	
			実効ミノ:	におり 線量が シーベス 月 られる 指	1.3 ルト 人下			□有	□無	
の防			立入	、制限排	昔置			□有	□無	
止			標		識			□有	□無	
に関		エ使	-	ク ス 「の 表	線示			□有	□無	
する事項	予防措置	及けマ/ 及けマ/ 入すよ線線べと 放の医条よび びるイ以 院るるを量ル 射被療のる等	び敷地 る実効 イクロ	居住 D の境界 D 線量が シーベンなる	にお 3250 ルト			□有	□無	
	(グ) (税) 安		る放射 る被除は 量が1.	音の(は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は) (は)	療射 放射 シー			□有	□無	
			波療の27を 変数でで 変数で 変数で で で で が で が で が り と り り り り り り り り り り り り り り り り り	療す行号線量う 従る規の量限に措 関連関連	量第定度をがることを			□有	□無	
		放りの取	放射線診療従事者等の被ばく防止用		者等 上 用 具	□しゃ		用器具	□遠隔操作器具)
				療従事		□フィ □TI			□ポケット線量計 □その他() /

備考 次に掲げる書類を添付してください。

- (1) エックス線診療室の構造設備、隣接室名、上階及び下階の室名並びに周囲の 状況を明記した平面図及び側面図(診療室図については、50分の1の縮尺のもの で、エックス線の照射方向、エックス線管から天井、床及び周囲の画壁外側まで の距離、防護物の材料及び厚さ並びに管理区域を設けた場合にあっては、その区 域、標識等の位置を記入したもの)
- (2) 漏えい線量測定結果記録の写し